

029
131
1

楊山外
全



027
131
1

愛知女子専
第 11678 號
圖書

72
11678



橘さう

白毫の款十は我門のそ人かてむ一函を
きかひへしは新のしりりのをわつし
よる多ゆ所一は朝のそをさしゆわた
しとてさすゆはひのなる所がそあ
川船のきさしをゆかん市ふる
みわつてさすゆのくしを傳
きさるの
馬合うり里ののりきをけくさゆを
待しけり

橘

和天孫の皇孫のむすぶる為 葉名 五朔

反故やもねし 侍しとて 五朔

かふも妻しつとてを許され 蒲

春 フゴ 振 フガ ぐさあきり 式下まをん 自木

まのいんをまあして 娘のん九川 任

花垣なるまきとて 一や世の中 考

卯月くは新まてのいぬの 十

まきとて 酒のたりあたり 周

やまを 遠縁はれ 秋のあきたを 相

昔のまあそとく 栞の 一 朔

あつ人の心あきてまきとて 朔のま 本

まきとて 是のあきとて 一 朔

若狭のあきとて 月う 朔

あきとて 若狭のあきとて 朔

あきとて 若狭のあきとて 朔

あきとて 若狭のあきとて 朔

少

葉

十

泉さくさくも母え花を色たつて世
きりくつ一をよかりて泉人とい
如藤御もさく一盞の夏の舟
あつたつる 花のしむくさ丸
まはらひめ花のあまの常夏の月
おほ河あつたの程のさくさく
あまをさく月をさくさくさく
軒さく揚枝のさくさく物也
周 十 考 本 乃 相 御

三

たかき着るさくさく人さくさくさく
いりりの端のさくさくさく
さくさくさくさくさくさく
次のさくさくさく
さくさくさくさくさくさく
野 さくさくさくさくさくさく
川 端のさくさくさくさくさく
目さくさくさくさくさくさく
相 乃 本 考 周 十

山

山

初折

二折

三折

名致

大垣

桑名

志波

柏原

歌十

丑潮

木邑

江米

支考

丑桐

風口

某人

木因

蒲道

吟猿

梅之

金士

白木

芦川

丸村

任行

如例

伊山

山崎

二折

櫻子のゆきを流しに貴也の

群 八つとあつて じきく歌を

支考

松色く散る屋のまをた文九多

孫之

行の 内も下さうしかり

均水

名月八草さうしかりもとる

桐舟

外もさうしかり 昔のまをた

白鳥

余より思ふに六福と解り合
解元路れりらへ一死つく
破噴きやも解日つて
それいそそへへ解れな
はへ水鏡と四方の解るも
花あへへつた字はへへ
月まひよ^{トリス}解りへへ
えりへへへへへへへへへ
考

ちを解るるへへへへへへへ
解んのへへへへへへへへへ
おまへのへへへへへへへへ
ゆのへへへへへへへへへ
えりへへへへへへへへへ
へへへへへへへへへへへ
考

竹下鳥

夕湖

あゝの道はつちかみん

燕の風はつちかみん

多岐のうまはつちかみん

波のうまはつちかみん

あふのうまはつちかみん

さのうまはつちかみん

ヲ
 林の半をのまふか
 祖又と祖曲の殿に
 大佐のまかむ
 味
 為
 江
 御
 新

巴都
 落白
 甫雲
 夕後
 李茂
 江
 有
 湖

曉のふゆり
 暁の
 掛
 幸
 懐
 令
 踏
 那

五
 壺
 七
 石
 白
 鈴
 桂
 堂

